

---

平成 28 年

# 5 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 揖斐農林■アスパラガス 第1回帰農塾の開催

新産地づくり地域活性化支援事業を活用した産地拡大に取り組み6年目となる今年は、栽培実証した低コスト雨よけハウスの普及と新規栽培者確保を目指して「帰農塾」を開催する。

揖斐アスパラガス部会、JAいび川、揖斐農林事務所の共催で2月から受講生募集などの準備を進め、5月13日に第1回を開催（8戸11名出席）した。開講式後、農業普及課が講師となり、栽培概要や播種から定植までの栽培管理について座学を行った。また生産者協力によりほ場視察や播種の実習を行った。受講生は水田営農や露地野菜からの経営拡大を考えている農家や、定年退職した人がほとんどであるため、上手に作付誘導していきたい。



【塾生と萌芽状況を確認】

### 中濃農林■ゆず かみのほゆず産地戦略会議開催

5月24日、かみのほゆず(株)、JAめぐみの、関市東商工会、関市、県農業経営課を参集し、農業普及課主催による「かみのほゆず産地戦略会議」を開催した。本会議は新産地づくり地域活性化推進事業に位置づけられており、産地拡大に向けて関係者が情報交換する場となっている。

会議では、産地の現状と課題、産地育成計画の進捗状況ゆずの生育状況等を確認し、今後の取り組みについて協議した。今年、栽培実証ほ設置や栽培講習会開催の他、栽培こよみの作成・配布、ゆずたよりの発行、加工所移転等を行う計画となっており、関係機関の連携を更に強化して最終年度目標（加工品・ゆず玉販売額3,700万円）の達成を目指す。



【戦略会議の様子】

## 多様な担い手づくり

### 郡上農林■女性農業経営アドバイザー 郡上市農業女子会を開催！！

郡上市主催で市内女性農業者を対象にした『農業女子会』が5月20日に開催され、37名の参加があった。この会は、郡上地区の女性農業経営アドバイザーが、女性農業者の連携や仲間づくりのために郡上市に提案して開催された。

アドバイザーからは活動や役割について紹介され、地域の女性農業者がつながりを深めることの必要性について、理解と協力が依頼された。

その後6～7名の小グループにて情報交換を行い、地域や作目を超えたつながりのきっかけとすることができた。

農業普及課では、郡上市と連携を深め、農業経営アドバイザー活動及び、地域女性農業者の活躍を支援していく。



【地域や品目を超え交流】

### 可茂農林■JAめぐみの就農塾支援 夏秋なすコース、第1回現地研修会を開催

夏秋なすコースにおいて、5月10日（火）第1回目の現地実習が開催された。収穫が終了する10月まで、坂祝町の就農塾受講者OBの夏秋なす栽培ほ場が実習ほ場となる。夏秋なすコースでは、JAと農業普及課が協力して編集した夏秋なす栽培マニュアルを用意している。毎月の実習ではこの



栽培マニュアルに基づき、その時期に行う栽培管理についてJ A職員が技術説明を行ってから実習作業に入るカリキュラムとしており、家庭菜園の園芸講座では得られないプロ向けの講座となっている。また実習指導は、就農塾0B、J A職員、農業普及課が行っている。

この日は事前にうね立てとマルチングがされた箇所に、なすの苗を定植する実習であり、植穴にかん水を行うこと、浅植として接ぎ木部分を守ること、土寄せでしっかり根を密着することなど、言葉だけでは分からなかった実践技術に耳を傾けていた。

今回は、6月7日に坂祝町の夏秋なす栽培者のほ場で第2回現地研修会を実施する。



【現地研修の実施状況】

### 東濃農林■土岐市土岐津町 **新規就農者の認定新規就農認定に向けて**

現在、土岐市で就農して1年目の新規就農者が認定新規就農認定を希望している。

そこで、5月18日に土岐市役所で市役所、J A等の関係者が集まり、認定希望者が認定新規就農者の認定基準に適合し、認定可能かどうかについて話し合った。

その結果、最終的には、本人と面談をして就農に至る経緯や意気込みを直接聞くなどして、特に問題がなければ、認定新規就農者として認定することになった。

農業普及課としては、青年就農給付金の支給や資金の借り受けなどの国の支援を円滑に利用できるよう支援し少しでも早く経営を安定化させていきたい。



【話し合いの様子】

### 恵那農林■夏秋トマト・夏秋なす生産協議会 **本年度も「チャレンジ塾」を開講**

東美濃夏秋トマト・夏秋なす両生産協議会では、新規栽培者確保の取り組みとして、J Aひがしみの及び農業普及課が支援する中、基本的な栽培技術を学ぶ「チャレンジ塾」を平成22年度から開催している。

本年度も、5月22日に中山間農業研究所中津川支所で開講式、第1回講座が開催され、恵那農業高校3年生3名を含む18名が参加し、トマト、なすコースに分かれて講座を受講した。

室内研修では農業普及課が講師を務め、産地概要や栽培の流れを説明した後、ほ場において鉢上げと定植作業の実習を行い、受講者は熱心に質問しながら栽培のコツを学習した。

「チャレンジ塾」は、本年度も11月まで毎月1回、合計7回の開催が計画されており、農業普及課では今後も支援を予定している。



【なすの鉢上げ実習】

### 下呂農林■新規就農 **新規栽培者を訪問 ～調子はどう？～**

下呂市ではJ A、市役所、農林事務所等関係機関で組織する就農支援集団「楽農楽食くらぶ」を結成し活動している。また、「飛騨トマト研修農園in下呂」での研修が今春から始まっている。

5月17日には会のメンバーで、就農2年目までの新規就農者と研修農園での研修生合計14名を訪問した。訪問では、トマト栽培や研修状況を確認するとともに、悩み事の聞き取りを行った。昨年からはトマト栽培を始めた男性は、前年の反省を生かし、作業を計画的に進め、定植を行っていた。また、この春からは研修を始めた女性も、やっと慣れた様子でテキパキと作業をこなしていた。



【育苗ハウスの様子】

農業普及課は、新規就農者の経営安定と、研修生の就農実現をフォローアップしていく。

### 飛騨農林■トマト 新規就農者・トマト研修所研修生を対象に勉強会を開催

5月18日、飛騨市古川町の生産者ほ場、JAひだ飛騨地域トマト研修所において、吉城・高原地区夏秋トマト新規就農者勉強会を開催した。

新規就農者や研修生が、栽培上の課題を改善し収益向上を図るため、生産者団体や関係機関の意見を取り入れて、今回企画した。

栽培経験の浅い生産者やトマト研修所研修生9名が参加し、各ほ場で生産者が栽培管理の概要について説明しながら、栽培に関する疑問点や対応策、改善した点等について参加者が相互に活発な議論を行った。

特に、育苗管理については参加者の関心が高く、他の生産者のかん水管理等について積極的に質問や意見交換をするなど前向きな姿勢が伺えた。

農業普及課では、トマトの生育状況や育苗管理について情報提供するとともに、勉強会の場を通じた参加者相互の情報交換を支援している。

今後は新規就農者の栽培状況を確認し、定植後の管理等について指導を行う。



【勉強会の様子】

## 売れるブランドづくり

### 岐阜農林■主要野菜 今年度のGAP取り組み方針を決定

5月19日、岐阜市園芸振興会のだいこん部会・ほうれんそう部会、JAぎふえだまめ部会、岐阜市いちご部会は、GAP運営委員会を開催した。

JAから、今年度のGAP実践スケジュール及び組織体制の説明があり、農業普及課から、昨年度分の現地調査結果と今年度のGAPチェックリスト案などの提案を行った。出席した役員からは、点検項目の表現の修正や残った農薬の適正な処理方法、JAの廃プラ回収などについて意見・要望があった。

今後、農業普及課では、今回決定した35項目のGAPチェックリストにより実施する現地調査において、各項目の達成状況を確認し、GAPの取り組みを強化していく予定である。



【GAP運営委員会の様子】

### 農業経営課■いちご・普及指導員＋営農指導員 専門的技術習得研修（いちご）を実施

5月19日、今年度1回目となる標記研修を開催した。新規にいちご担当となった普及指導員の他、今年度から新たにJA営農指導員も対象とし、栽培技術・調査方法について講義及び現地実習により、理解を深めることを目的としている。

今回の研修では、いちごのベテラン普及指導員から「育苗～定植までの栽培管理」について講義を受けた後、株の分解調査の実習を行った。また、農業技術センターの指導のもと、株管理の実際について圃場実習を行った。実際に作物に触れながら学ぶ研修は受講生から好評であった。今後の普及活動について、即戦力として期待がかかる。



【いちご株分解調査実習】

## 住みよい農村づくり

### 西濃農林■ときの輝生産組合 小学生による農業体験学習

「ときの輝生産組合」は大垣市上石津町時地区の水田担い手のグループで、毎年、一般の小学生とその保護者を対象に農業体験事業を行っている。今年も5月22日に時地区の水田で「田植え体験」を行った。体験者の募集は大垣市内のユニーと連携して行い、父兄を含めて45人の参加者があった。

農業普及課は体験事業の実施に当たり、生産組合とユニー、その他の関係団体との連携を図り、また、当日には稲作の全般と田植え作業の説明を行った。

田植え体験後は、昨年作られたお米で作ったカレーライスを味わい、農業の大切さを確認して終了した。

今後は「稲刈り体験」を実施する予定である。



【農業体験の様子（上：稲作の説明、下：田植え体験）】